

エビネ属及び近縁属の交雑種の 開花について(2)

磯部 実・石田源次郎

エビネ属とその近縁属において、新品種作出及び類縁関係を探るために、種間ならびに属間交雑を試みている。

これまで作出した交雑種のうち、前報(栽培記録第8号)では5種について記録したが、それ以降これまでに開花した交雑種10種についてその特徴を記録する。なお無菌播種したフラスコの管理条件や、苗の管理方法は前報と同様にした。

ブリアン (*Calanthe Bryan*) とルベンス (*C. rubens*) の交雑種

1979年2月6日、落葉性の園芸品種ブリアンにタイ原産で落葉性のルベンスの花粉を交配し、同年5月12日に無菌播種し、多数の苗を得ることができた。1983年2月に初開花し、これまでに数十株が開花した。開花期は最低温度15℃のガラス温室では冬。

球茎は稜のある長卵形あるいはヒョウタン形、高さ約10cm、直径約5cmとなる。葉は長さ約30cm、幅約10cmの長楕円形で3~4枚を展開し、冬は落葉する。花茎は球茎の基部から出て30~60cm、約10個の花を着ける。花の自然開張幅は約3.5cm。花弁、萼片は黄白色で周縁は桃色、長さ約2cm、幅約1cm、細長く先は尖り、後方へややそり返る。唇弁は淡桃色~赤紫色、長さ約1.7cm、幅約2.6cm、大きく3裂し、中裂片は中央で浅く2裂する。長さ約8mmの距がある。



ブリアン×ルベンス

花形、花色は両親の中間形を表しているが、唇弁の色彩に、両親に無い赤紫色の濃い固体がみられる。

ルベンスとベスチタ (*C. vestita*) の交雑種

1979年2月6日、ルベンスに熱帯アジア原産のベスチタの花粉を交配し、同年5月12日に無菌播種し、多数の苗を得ることができた。1985年1月に初開花し、これまでに数十株が開花した。開花期は最低温度15℃のガラス温室では冬。

球茎は稜のある長卵形またはヒョウタン形、高さ約10cm、直径約5cmとなる。葉は長さ約30cm、幅約8cmの長楕円形、3~4枚を展開し、冬は落葉する。花茎は球茎の基部から出て、長さ40~60cm、10~15個の花を着ける。花の自然開張幅は約4cm。花弁、萼片は淡桃色で、長さ約2.2cm、幅約1cm、細長く先が尖り、後方へそり返る。唇弁は桃色で、喉部に赤紫色の斑が入り、長さ約1.7cm、幅約2.6cm、大きく3裂し、中裂片と側裂片は幅広く展開し、中裂片は中央で浅く2裂する。長さ約8mmの距がある。

花形、花色とも両親の中間形を表している。



ルベンス×ベスチタ

オナガエビネ (*C. masuca*) とエビネ (*C. discolor*) の交雑種

1982年7月13日、オナガエビネに、5月に採取し冷蔵庫(約5℃)で貯蔵しておいたエビネの花粉を交配し、同年12月14日に無菌播種し、多数の苗を得ることができた。1987年11月に初開花し、1989年までに3株が開花した。開花期は最低温度10℃のガラス温室では秋。

葉は長さ約20cm、幅約6cmの長楕円形、3~4枚を展開する。花茎は新しく展開した葉の中

心から伸び、長さ20~30cm、約10個の花を着ける。花の自然開張幅は約3cm。花弁と萼片は紫褐色で細長く、先が尖り、長さ約1.7cm、幅約8mm。唇弁は紫褐色で、長さ約1.5cm、幅約1.7cm、3裂し、中裂片はさらに中央で2裂し、3本の隆起線がある。長さ約1.6cmの距があり、花粉塊の数は6個。

開花期や唇弁の形、長い距などはオナガエビネの特徴を表し、花がよく展開することや花色はエビネの特徴を表している。開花期間は長く、1ヶ月以上咲き続ける。



オナガエビネ×エビネ

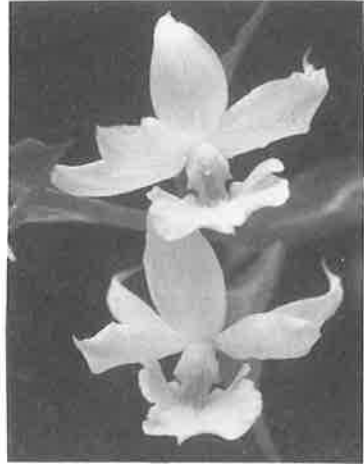
オナガエビネとルベンスの交雑種

1982年7月13日、オナガエビネに、4月に採取し冷蔵庫(5℃)で貯蔵したルベンスの花粉を交配し、12月14日に無菌播種し、苗を得ることができた。1988年8月に1株が初開花した。

球茎は基部がやや太く卵形、直径約1cm、高さ約3cm、頂部より4枚の葉を展開する。葉は長楕円形で、長さ約15cm、幅約4cm。花茎は新葉の中心より、約50cm弧状に伸び、18輪の花を着けた。花の自然開張幅は約3cm。花弁と萼片は桃色で、長さ約1.8cm、幅約8mm、細長く先は尖り、後方へややそり返る。唇弁は桃色で長さ約1.5cm、幅約1.8cm、半円状で3裂し、中裂片と側裂片はよく展開し、中裂片に3本の隆起線がある。長さ約2cmの距がある。

常緑の葉と、幅広くやや上向きで3本の隆起線のある唇弁は、オナガエビネの特徴を表し、

茎の形や、細長く弧状に伸びる花茎は、ルベンスの特徴を表している。

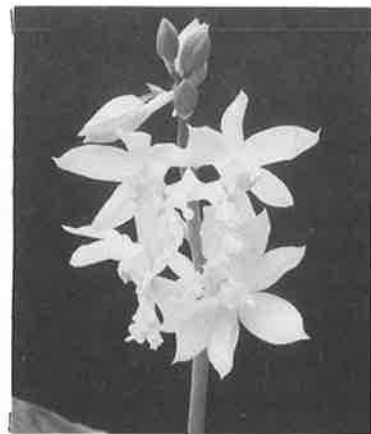


オナガエビネ×ルベンス

キエビネ (*C. sieboldii*) とアマミエビネ (*C. amamiana*) の交雑種

1982年5月5日に、キエビネにアマミエビネの花粉を交配し、翌年2月1日に播種し、多数の苗を得ることができた。1989年4月に2株が初開花した。

葉は長さ約15cm、幅約6cmの長楕円形、光沢がありやや硬く、2~3枚を展開する。花茎は新芽の中心から伸び、長さ20~30cm、約10個の花をやや密に着けた。花の自然開張幅は約3.5cm。花弁と萼片は淡黄色で、長さ約1.7cm、幅約8mm。唇弁は淡黄色で、長さ約1.5cm、幅約1.5cm、中裂片に3本の隆起線があり、中裂片と側裂片は



キエビネ×アマミエビネ

幅広く展開する。長さ約8mmの距がある。

花色はキエビネの特徴を表し、光沢のある硬い葉や長い距は、アマミエビネの特徴を表している。

プリンス フシミ×ハリシー (C. Prince Fushimi x C. Harisii) とロゼア (C. rosea) の交雑種

1983年1月15日に、プリンス フシミ×ハリシーにロゼアの花粉を交配し、同年4月3日に無菌播種し、多数の苗を得ることができた。1989年1月に初開花した。

球茎は高さ約10cm、直径約5cm、稜のあるヒョウタン形で、頂部に長さ約30cmの長楕円形の葉を4～5枚展開する。葉は冬に落葉する。花茎は球茎の基部からでて、約50cm、約15個の花を着けた。花の自然開張幅は約5cm。花弁、萼片は黄白色で、細長く先は尖り後方へそり返り、長さ約3cm、幅約1cm。側萼片は1/2回転ほど反転する。唇弁は黄白色で周縁と喉部は赤紫色、長さ約2.3cm、幅約3.3cm、3裂し、中裂片、側裂片とも幅広く、中裂片は中央で浅く2裂する。長さ約2.2cmの距がある。

唇弁は大きく、両親の特徴を表し、花弁と萼片の形はロゼアの特徴を表している。



(プリンス フシミ)×ハリシー×ロゼア

プリンス フシミとキョウト (C. Kyoto) との交雑種

1983年1月19日にプリンス フシミにキョウ

トの花粉を交配し、同年4月3日に無菌播種し、多数の苗を得ることができた。1989年1月に初開花した。

球茎は高さ約8cm、直径約3.5cm、稜のある長卵形で、頂部に長さ約20cmの長楕円形の葉を3～4枚展開し、冬に落葉する。花茎は球茎の基部から出て、約30cm、5個の花を着けた。花の自然開張幅は約4cm。花弁、萼片は赤紫色で細長く先は尖り、後方にそり返り、長さ約2.5cm、幅約1cm。唇弁は赤紫色で3裂し、中裂片、側裂片とも幅広く、中裂片は中央で浅く2裂する。長さ約2cmの距がある。

花形は両親の中間形を示し、花色は両親よりさらに濃い色彩で園芸的価値が高くなっている。



プリンス フシミ×キョウト

ツルラン (C. triplicata) とサルメンエビネ (C. tricarinata) の交雑種

1984年8月19日、ツルランに、5月に採取し冷蔵庫(5℃)で貯蔵したサルメンエビネの花粉を交配し、同年12月10日に播種し、多数の苗を得ることができた。1989年9月に初開花した。

生育は比較的旺盛で冬芽はつぐらない。葉は長さ約30cm、幅約8cmで長楕円形、5～6枚を展開する。花茎は展開した新しい葉の中心から伸び約40cm、約10個の花を密に着ける。花の自然開張幅は約3.7cm。花弁と萼片は淡黄緑色で、細長く先は尖り、長さ約1.6cm、幅約7mm。唇弁は赤紫色で長さ約1.3cm、幅約1.5cm、中裂片に3本の隆起線があり、中裂片と側裂片は幅広

く展開する。長さ約7mmの距がある。

開花期や花序、大きな苞、長い距などはツルランの特徴を表し、唇弁の形や色は、サルメンエビネの特徴を表している。



ツルラン×サルメンエビネ

オナガエビネとエルメリ (*C. elmeri*) の交雑種

1984年8月20日、オナガエビネに、2月に採取し、冷蔵庫(5℃)で貯蔵したフィリピン原産で落葉性のエルメリの花粉を交配し、12月10日に無菌播種し、多数の苗を得ることができた。1989年1月に初開花した。

球茎は基部が太く卵形で、直径約1.5cm、長さ約3cm。葉は長さ約20cm、幅約5cmで長楕円形、4枚を展開し2年目には落葉する。花茎は葉の中心から伸び約25cm、14個の花をまばらに



オナガエビネ×エルメリ

着けた。花の自然開張幅は約4.2cm。花弁と萼片は赤紫色で細長く、やや後方へそり返り、長さ約1.5cm、幅約8mm。唇弁は赤紫色で長さ約1cm、幅約2cm、3裂し、中裂片と側裂片は幅広くよく展開し、中裂片には3本の隆起線がある。長さ約2cmの距がある。

球茎の形や花の着き方は、エルメリの特徴を表し、葉の常緑性や唇弁の形はオナガエビネの特徴を表している。花色は両親より鮮やかな色で、園芸的価値は高いと思われる。しかし両親に比べると生長が遅く、栽培が難しい。

タカネ (*C. x takane*) とプラントギネア (*C. plantaginea*) の交雑種

1985年3月24日、タカネに、ヒマラヤ原産のプラントギネアの花粉を交配し、10月14日に無菌播種し、多数の苗を得ることができた。1989年5月に初開花した。

葉は長さ約30cm、幅約6cm、光沢があり長楕円形で3~4枚を展開する。花茎は新葉の中心から伸び約30cm、約10個の花を着けた。花の自然開張幅は約4cm。花弁と萼片は黄色で長さ約2cm、幅約7mm、上萼片はやや幅広い。唇弁は黄色で長さ約1.6cm、幅約1.7cm、3裂し、中裂片と側裂片は幅広くよく展開し、中裂片には3本の隆起線がある。長さ約8mmの距がある。

花色はタカネの特徴を表し、花形や葉の形質はプラントギネアの特徴を表している。



タカネ×プラントギネア